

地域交付金の今後は

継続する方向にある



質問 各コミュニティが抱えている課題をどのように捉えているか。

答弁 役員等の後継者不足

と聞いている。地域の類似した団体の中には協力して事務の効率化を図っているところもある。会合の時間等を工夫

してもらいながら市も相談に乗っていききたい。

質問 単年度で完結していることから次年度の見通しが立たない地域交付金の在り方は。

答弁 この制度は本年度で5年目になる。柔軟に対応するよう、制度・運用の見直しをしてきた。今後も継続する方向であり、複数年に渡った運用も可能と思う。

観光施策は

質問 日本遺産の活用を図り、誘客につなげてはどうか。

答弁 日本遺産として認定された玉山金山について、行政主導ではなく、町民と連携

しながら観光地化を図りたい。人が動かなければ、良い素材があっても活用しきれない。まずは人材育成を図り、行政と竹駒町民、市内全体の方々で、更なる人材育成を図るなどの活動を展開したい。



地域交付金を活用して整備した駐車場(竹駒町)

質問 本市にある日本遺産を有効活用するためにも、全市一丸による取り組みはどうか。

質問 観光施策として重要

答弁 玉山金山は、観光資源として重要だが、歴史、文化としての財産であり、観光部局だけではなく、教育、歴史、文化を扱っている部署との連携も重要であり、必要に応じ検討する。

質問 観光施策として重要

共に学ぶ教育体制は

交流と共同学習を推進



質問 本市は「ノーマライゼーション」という言葉のいないまちづくり」として共生社会を目指している。障がいのある子と、ない子が共に学

ぶ教育環境の現状と課題はどうか。

質問 障がいのある人が経済的に自立した生活をおくるためには就労継続支援事業所での工賃の向上が重要と思うがどうか。

質問 本市の避難行動要支援者名簿と要配慮者の個別避難計画の作成状況はどうか。



共に学び、共に生きる



小澤 睦子 (新志会)

は月2万5594円で県内でも最高額だが、向上を図るため一層の仕事確保に向けて支援をしていきたい。

質問 障がいのある人の結婚についての認識はどうか。また、支援体制の方向は。

質問 災害時の在住外国人への避難情報伝達体制は。

震災の教訓どうつなぐ

復興事業の記録誌を作成中



質問 震災の教訓を未来に伝える内容と手法はどうか。

答弁 震災遺構は、当時の姿をそのまま保存しているこ

設住宅の生活を生で感じることができることから、震災伝承プログラムの充実を図りながら利用者数の増加を目指していきたい。

質問 復興事業の制度の課題を抽出し、震災の教訓とする考えはないか。

質問 文化財保存活用地域



震災の事実と教訓を伝える遺構



大坂 俊

設住宅の生活を生で感じることができることから、震災伝承プログラムの充実を図りながら利用者数の増加を目指していきたい。

質問 復興事業の記録誌を本年夏ごろに公表できるように作成中である。

質問 文化財保存活用地域